

令和元年度 南三陸町高校魅力化協議会（第7回）	
<b>日 時</b>	令和2年3月23日（月）16:00～17:00
<b>場 所</b>	南三陸町役場 3階会議室
<b>次 第</b>	<p>1 開会</p> <p>2 挨拶</p> <p>3 議事等</p> <p>（1）パブリックコメントについて・・・資料1（事務局）</p> <p>（2）第1期志津川高校魅力化構想について・・・資料2（事務局）</p> <p>4 その他</p> <p>・事務連絡等</p> <p>5 閉会</p> <p>&lt;資料&gt;</p> <p>次第 「令和元年度第7回南三陸町高校魅力化協議会」</p> <p>資料1 「パブリックコメントについて」</p> <p>資料2 「第1期志津川高校魅力化構想について」</p>
<b>出 席</b>	<p>委員（敬称略）：</p> <p>&lt;出席：7名&gt;</p> <p>最知明広（副町長）、齋藤明（教育長）、山内利也（志津川高校PTA会長）、 三浦馨（志津川中学校校長）、阿部麻帆（歌津中学校PTA会長）、 佐藤克哉（民間）、阿部忠義（民間）</p> <p>事務局：4名（桑原調整監、山内室長、佐藤主事、佐藤陽（魅力化専門官））</p>

## < 1. 開会 > (事務局)

## < 2. 挨拶 > (会長)

改めてあけましておめでとうございます。第5回協議会へ出席いただき感謝申し上げます。今回で年度内残り3回となります。なんとか年度内に魅力化構想をまとめるために、委員の皆様には忌憚のないご意見を頂戴いただきますようよろしくお願い申し上げます。

年末に町長が志津川高校で講話をおこないました。その際に魅力化協議会の話をしたところ、3年生の生徒から是非傍聴してみたいという声があり、本日3名の生徒が傍聴にきました。是非、本日の会議の内容や感想を高校へ持ち帰り、生徒達に伝えていただきたい。

本日もよろしくお願いしたい。

## < 3. 協議 >

事務局：前回会議の続き（資料2の12ページから）からよろしくお願いします。

### (1) 第1期魅力化構想中間骨子について

事務局より、前回会議において指摘のあった資料の訂正について説明。「第一期志津川高校魅力化構想中間骨子」施策2の説明を行った。

会長：施策2についての説明がありました。新規で「女子硬式野球部」の案がございます。

県内のほとんどの高校には女子野球部はありません。部活として学校の判断で新設することは可能なのかどうか、葛西委員にお聞きしたい。

葛西委員：新しい部活動をつくるためには、まず愛好会から始め、周辺設備を整え、参加している生徒達、指導者等、様々な環境を見極めながら部活動に昇格するといった流れになります。

阿部委員：「女子硬式野球部」については第1回目の協議会で提案されたときは違和感があったが、松原グラウンドが完成し、このグラウンドで高校生達が練習に励む姿を住民が見れば、町に活気が出るのではないかとだんだんと思うようになった。

生徒数を増やすためにはまず、「女子硬式野球部」をきっかけに町を活気づけて、学力等の様々な課題に取り組んでいくという道筋もあるのではないかと。

会長：女子硬式野球の試合を甲子園でおこなうといった新聞報道があった。もし、部として活動できるのであれば全国にPRできるチャンスになる。

三浦委員：西部ライオンズの配下で女子野球部をつくるといった報道もあった。やるのであれば早く手を打たないといけない。球団の支援面で考えれば、南三陸町には楽天との繋がりも

ある。

会長：部としての環境面の整備が課題だと思う。部として活動する準備期間はもちろん必要。学校側として、令和2年度から準備をはじめ、令和3～4年度に部として活動を始めることは可能か？

葛西委員：指導者を誰にするのか？が一番頭を悩ませる部分だが、町の協力を得ながら外部の指導者などを利用して活動していくことは可能と思われる。ただし、野球は9人でおこなうスポーツのため、人数が揃わないこともある。男子の場合は近隣高校と合同チームで活動できるが、女子の場合は他のチームがない。練習試合の相手を探すことも難しい。

広域でチームを考えれば不可能な話ではないと思う。

会長：「女子硬式野球部」については現段階で実施年とKPIは設定していないが、施策として同意いただければ準備を始めていきたい。委員の皆様いかがでしょうか。

事務局：「女子硬式野球部」については先ほど三浦委員からあったように、全国的に動きがはじまっている。早くやらなければ打ち手としては効果が薄れていく。

可能であれば令和2年度から愛好会として活動するなど、動き出していかなければならない。

斎藤委員：部活創設にあたっては愛好会からスタートすると伺ったが、中学生の目線で、愛好会があるから行きたいと思う生徒がいるとは思えない。やはり目的の部活があるからこそ生徒が集まると思う。

本来は部の創設については、生徒達の意向としての愛好会から盛り上げていくと思うが、今回の「女子硬式野球部」については学校側が積極的に部活動として創設し、生徒達を受け入れるべきだと思う。

女子硬式野球部ができれば男子野球部も自然と盛り上がっていくのではないかと。そして、男女それぞれに楽天からのサポートがあれば、男子野球部員も自然と増えるのではないかと。

先ほど阿部委員の意見にあったとおり、松原グラウンドで練習に励む姿を町民が見れば、町の活性化になる。是非「女子硬式野球部」については前向きに令和2年からスタートさせてほしい。

会長：父兄から聞いた話として、地元の中学校の野球部にエースピッチャーの女子生徒がいる。例えば志津川高校に女子硬式野球部があれば、そういった生徒の選択肢の1つに志津川高校も入るのではないかと。

斎藤委員の意見で、是非令和2年度から部として活動してほしいとありましたが、生徒

会の同意を得る必要があります。令和2年度から準備を始めることに異論はないとは思いますが、現実的にPR等を始め、部活動を魅力として入学してくれる生徒が1人でも2人でもいれば魅力化としての良い方向に進むと思われるので、「女子硬式野球部」を新規の魅力化構想に入れ込んでよろしいか。

葛西委員：構想に入れ込むことと、実際に女子野球部を創設することは違う。もちろん高校でも前向きに検討させてもらうが、すぐに部ができるわけではない。

会長：町としても是非応援したいと思っている。令和2年度から準備を進めることになれば、先生方や生徒の皆さんに説明する機会を設けたい。

齋藤委員：令和2年度から準備期間ということだが、「女子硬式野球部ができそうだ」といった情報を今年度の入試の時点で流すことは可能か。

葛西委員：不確定な情報をお知らせすることはできない。

齋藤委員：今までの協議の中で、全国募集や女子硬式野球部は魅力化の大きな柱であると思うので、少しでも早く魅力化の形として表すことができればと思う。

葛西委員：全国募集をするのかどうかについては県教委が決定する。今の段階で全国募集を始めるといった情報を流すことはできない。

会長：時系列としては魅力化構想がまとまるのが3月。勇み足で情報が先走ることを懸念されていると思う。もちろん策定した構想がすべて実現可能かどうかはわからない。ただ、魅力化の準備に取り掛かっている情報は、公表して良いものとそうでないものの線引きが必要。

県教委：高校の部活動は生徒会の総会で審議されるもの。構想はすごく良いものだと思うが、生徒会を巻き込まないといけない。

事務局：例えば、今の志津川高校1、2年生の女子生徒の中で野球に興味ある生徒はいますか？

生徒会：1年生の女子には中学の時に野球部だった生徒が3名。それより下の世代においても学童野球をしている子もいる。公式女子野球は良い提案だと思いましたが、女子硬式野球部にはやる気がなければ入部しない。そこまでの情熱がある生徒がいるとは現時点では思えない。

会長：貴重なご意見ありがとうございます。管内にも野球をしている女子生徒がいて、管内の

女子生徒だけでもチームができる可能性があることもわかりました。

事務局：第2回協議会の資料が町のホームページ載っていますが、そのなかで、「女子硬式野球部の可能性」という資料がありますので、よろしければ見てください。

会長：施策の2についてはよろしいか。

委員全員：了解

会長：それでは施策の3に入る。

事務局より施策3「伝える力・聴く力を養うコミュニケーション機会の提供」について説明

会長：施策3について何かご意見ありますか。

佐藤委員：コミュニケーション能力を養う取組はどんどんおこなってほしい。私の会社でも昨年の卒業生を受け入れているが、社会に出てからの対話の仕方等が非常に大事だ。外に出てプレゼンや、自分の意見を言うことはかなり度胸がつく。固定化された人間関係を打ち破る力を養うことができると思うので、既存の取組も新規施策も強化を図るべきものだと思う。

葛西委員：非常に良い提案だと思う。佐藤委員からあったように、生徒が外で意見を言える能力が身に付くと生徒に変化が生まれる。そういった機会を今後も設けていきたいし、ご協力をいただきたい。

事務局：機会の充実でいえば、南三陸町は共立女子大学と連携協定を結んでいる。また、大正大学とも付き合いがある。大学生が町に来る機会が沢山ある。その機会をうまく活用できれば良い取組ができる。

阿部委員：大学生も良い刺激になるし、そういった機会は沢山作ってほしい。

会長：施策の3については委員全員異議がないということでよろしいか。

委員全員：了解した

会長：それでは施策4に入る。

事務局より施策4「目標に向かってチームで協力し合う活動の充実」について説明

会長：施策4についてご意見いただきたい。

齋藤委員：昨日、「道の駅」の説明会があったが、伝承施設のファシリテーター役やアシスタント役を高校生がやるというのも良いと思う。他の伝承施設では中高生がボランティアとしておこなっているとよく耳にする。まちづくりへの協力という意味でも是非志津川高校でも生徒達に声掛けしてほしい。

葛西委員：今日傍聴にきている生徒達も11月におこなわれた「町民体育祭」の運営に携わっている。2月にはまちづくり協力隊としてさんさん商店街で自主的に活動している。

既に様々な取組を自主的におこなっているのです、新規の取組というより既存の取組になるのではないかと。

「地域探求学」という取組を学校設定科目に組み込んでほしいという提案に対しては前向きに検討していきたい。

佐藤委員：この施策も良い提案だと思う。高校生が主体的に地域課題の解決へ向けて取り組むことは町としての価値を高めることに繋がる。是非推進していただきたい。

事務局：今回の構想を取りまとめて令和2年度から協議会の下にカリキュラム、全国募集、財源という3つの部会を設けて個別施策の議論を進めていくことを現段階では想定している。施策4についてはカリキュラム部会が該当する。

会長：今回はあくまで構想を策定するための協議会ですので、個別の具体的な施策については次年度から部会を設けて検討していく予定。

事務局：現時点で想定している次年度の体制について資料をお配りする。現在予算要求中のため確実ではないが、事務局としてはこの体制を想定している。

会長：施策4についてはよろしいか。

委員全員：了解

会長：施策5に入る

事務局より施策5「地域資源の活用や多世代交流の推進」について説明

会長：施策5について意見をいただきたい

阿部委員：南三陸町に大学生は結構来ている。いりやどに宿泊する大学生だけでも年間300

0人いる。この大学生を活用できないのはもったいないと思っていた。大学生も地元の高校生と交流を持ちたいと思っている。上手くマッチングした良い取組ができればと思っている。

佐藤委員：良い取組に繋がれば、高校生からみて大学生を身近に感じ、大学に興味を沸く生徒も増えるのでは。また「スポフェス」の取組は一部の声掛けで高校生が参加したが、もっと積極的に高校生と地域とが接点をもてる仕組みがあれば良いと思う。

事務局：町と大学が連携協定を結んだりしているが、高校と大学が協定を結ぶ例はあるのか。

葛西委員：石巻専修大学と高校が連携を結んでいる例があり、高校生が大学の講義を受けたりしているので、協定を結ぶことは可能と思われる。

会長：県内ではそういった例はあるか。

県教委：県の教育委員会と仙台にある大学はすべて包括的に協定を結んでいる。大学の先生が高校で講義をするといった取組もあれば、高校生が大学で講義を受ける場合もある。

会長：町として大正大学と共立女子大との繋がりはあるが、是非志津川高校との関係性も含めた包括的な協定を結びたいとは思っていたが、可能であると認識できた。  
施策5についてはよろしいか。

委員全員：了解

会長：施策6に入る

事務局より施策6「新たな価値観を受け入れる多文化共生の推進」について説明

会長：施策6について説明があったが、事務局案として寮という文言が出てきた。これは全国募集を視野に入れた提案である。前回会議において、皆さんから前向きに検討することに同意を得たので資料の中に具体的に寮という文言を入れました。

会長：志津川高校では台湾との交流はどのくらいおこなっているか。

葛西委員：今年度は年に2回おこなった。2月12日には台湾の学校と姉妹校協定を締結する予定です。

山内委員：是非今後も諸外国との交流を深めていただきたい。

葛西委員：全国募集を前提に話が進んでいる。構想として議題に上がることは必要なことだとは思いますが、全国的には成功例もあるが失敗例もある。慎重に制度設計をしなければならない。

会長：全国募集の決定機関は県になるので、町と県それぞれの立場から、連携と協議を重ねていかなければならない。

佐藤委員：留学生派遣制度について。私もライオンズクラブに所属しているが、そこで毎年台湾やヨーロッパとの交換留学生の募集がくる。この制度も上手く利用すれば良い。

寮についてはライオンズクラブで「ホストファミリー」もおこなっている。全国募集していくなかで、この制度も調べてみる価値はあると思う。

ライオンズクラブの中にも志津川高校出身者がいて、魅力化協議会に参加したいという熱心な方もいる。

財政面など町単独ではなくこういった外の団体との協力体制も視野に入れていけばよいと思う。

事務局：国際交流協会もあり、今年の3月に台湾交流があるが、8名の募集に対し14名の応募があった。その中で志津川高校の生徒は少なかったが、この制度も含めて国際交流を継続的に進めてもらいたい。

齋藤委員：寮の魅力化の中に「自主・自立」という文言が入っている。寮の中で自主・自立を促すことはなんとなく心配だ。ホストファミリーのようなサポートがあれば親からすれば安心できる。「自主・自立」という言葉ではなく、「主体的」などに変えてみてはどうか。

事務局：「主体的」に訂正いたします。

1点お伝えいたします。今年に入り、内閣府の地方創生推進室から事務連絡がありました。各都道府県市町村宛に高校生地域留学推進のための高校魅力化支援事業の公募について。内容は都市部の高校生が1年間地方の高校へ留学することに支援をする制度です。将来的に志津川高校の全国募集の取組でも、受け皿として寮や下宿が必要になりますが、国としてもこういった高校魅力化の取組に対して支援する体制をとっている。

全国的に高校魅力化の流れは進んでいる。県立高校に対して町が支援するのはどうかという話もよく聞くが、高校魅力化は町全体で取組むべき課題だと全国的に認知されてきている。



齋藤委員：全国募集や留学制度で、他地域から生徒が入学してくれば地元にながらにして様々な人間関係を構築でき、コミュニケーション能力の向上や新たな価値観や異文化を受け入れる力を身に付けることができるのではないかと。

事務局：昨年度の志高まちづくり議会で「交換留学制度」の提案があった。国として示す前に高校生が提案した。国に直接高校生の声が届いたわけではないが、国と同じ視点を持っていたすばらしい提案であった。

会長：例えば全国募集で寮ができた場合、空き部屋に留学生の受け入れも可能ではないか。南三陸町の場合は震災関連で都市部から沢山の職員が派遣されている。そういった全国との繋がりを活かせる取組だと思うので、実現は不可能ではない。施策6についてはよろしいか。

委員全員：了解。

会長：施策の7に入る。

事務局：施策7「自分の夢に向かって取り組む場と機会の提供」について説明

会長：施策7について何か意見あるか。

佐藤委員：マイプロジェクトで活々と活動する生徒は多いイメージがある。気仙沼市も行政として関わり、民間団体が伴走して取り組んでいる。生徒が考える取組に対して地域が支援していくすごく良い取組だと思う。

三浦委員：このプロジェクトが自分の夢に向かって実践的に取り組むアプローチ方法として良い取組だと思う。

会長：施策7についてはよろしいか。

委員全員：了解

会長：施策8に入る。

事務局：施策8「社会を変える力を生み出す取り組みの推進」について説明

会長：施策8について意見あるか。

葛西委員：非常に良い取組だと思う。

会長：今回の会議では高校生に来ていただいたが、志津川高校を選択するのは中学生であり、中学生が高校に対してどのように考えているかを知ることも必要だと思われる。

中学校の校長先生に同意をいただければ、可能であれば是非次回会議から中学生も傍聴いただきたい。次年度からは具体的な取組へ向けて部会をつくりませんが、それぞれの部会に生徒が参加することを想定している。

それでは傍聴にきていただいた生徒に意見もらいたい。

生徒：施策の3、4について。高校生は地域との関わりが少ないと感じた。例えばアルバイトは長期休暇中にしかできないが、地域の仕事を知る良い機会だと思う。

生徒が主体となって高校を変える活動については、何かを変えようと行動に移す生徒が少ない。3年間の生徒総会で生徒達の意見を受理された件数は少ない。その様な理由から行動に移す生徒が少ないと思う。「できること」「できないこと」があることは理解しているが、自分達の意味で、例えば校則を変更する為に行動することは、社会に出て役立つと思う。

会長：ありがとうございました。このように考えることは良い機会だと思う。

施策8についてはよろしいか。

委員全員：了解

会長：施策9に入る

事務局：施策9「持続可能な高校魅力化の推進」について説明

会長：施策9について意見をいただきたい。寮の整備も記載にあります。特に新規施策について意見あればいただきたい。

事務局：財源確保について、あらゆる策を令和6年まで検討すると記載していますが、部会での検討状況に応じて、次年度からでも取組めるものは着手していく予定ですので、検討止まりになっている文言を修正します。

三浦委員：伝承館という話が出たが、気仙沼の階上地区では中学生が語り部として活動している。実際は高校生の方が取り組みやすく、有償ボランティアとして活動するのも良いと思う。

有償でやるからには責任が伴う。十分な知識をつけることができれば可能だと思う。この取組で地域を知り、ボランティア精神も育まれる。構想にもある「地域探

求学」のリアルな取組になるのでは。

佐藤委員：全国募集をするためには、情報発信を本気で取り組まないと上手くいかないと思う。

課題は財源。いつまでも町の財源を頼れないので、民間の予算をどれだけ引き込めるか。民間が「ここに支援して良かった」と思ってもらえるような様々な仕掛けが必要になる。

阿部委員：私も財源が課題だと思う。企業版ふるさと納税の制度が大きく変わるという話も聞く。企業にメリットが出る仕掛けができると良い。

構想にある9つの施策は良いものだと思う。この施策を完璧にできれば素晴らしい志津川高校になると思う。

齋藤委員：既存の取組で「オープンスクール」がある。高校で一生懸命取り組んでいるが、オープンスクールに参加する生徒は最初から志津川高校への入学を決めている生徒がほとんど。他校と比較するために参加している生徒は少ないのでは。

中学校の先生からすれば、志津川高校だけを薦めることはできないが、志津川高校の魅力が生徒や保護者に伝わるようにしてほしい。

「情報発信」等、既存の取組の充実を図ることも大切。

山内委員：アルバイトを禁止している学校が多いなかで、志津川高校は禁止されていない。

様々な企業と連携し、夏休み期間等に様々なアルバイトができる高校をひとつの売りにしても良いのではないか。

葛西委員：具体性のある提案をいただいた。すぐに取り組めるものと長期的な視野をもって今後考えていかなければならないものとあるが、地域を活かした取り組みについてはすぐにでも取り入れて実現していきたい。

来月おこなう「地域パートナーシップ会議」の場でも志津川高校の魅力化をどのように深めるかを地域の方々と話し合います。このような機会を増やしていきたい。

「魅力化協議会」「地域パートナーシップ会議」「中高連携会議」と3つの重要な会議があるが、それぞれの会議をリンクさせていけば、高校魅力化の取組がより具体的な方向へ進むのではないかと思う。

志津川高校としては、在校している生徒が他地域で暮らすことになっても、常に南三陸のことを想ってもらえるように育てていきたい。

本日は3名の生徒会の生徒を参加させていただき、御礼を申し上げます。

高校教育課：宮城県の県立高校のなかで、地域の方々が真剣にまちの高校を魅力的にしようとして取り組んでいるところは他にない。さらにこの議論の場に生徒も参加していて

る。今までに見たことがない。

皆さんの議論を聞いているなかで、全国募集は高校教育課、新しい学科をつくるのは教育企画室、といった縦割りがあがるが、高校教育課としても皆さんの議論を真剣に受け止めたい。

従来にないものをつくる際には、今までの既成概念に捉われずに行動していかなければならないと思う。

コミュニティスクールを文科省で薦めているが、高校バージョンはあまりない。志津川高校はその先駆けとなる可能性がある。

会長：5回目の協議会については以上になりますが、年度内にあと2回協議会をおこないます。もう一度全体の見直しをして、年度内の構想策定を目指します。

もし今までの協議会のなかでお気づきの点等あれば事務局に連絡いただきたい。

#### < 4. その他 >

事務局より次回会議の日程確認について説明

～閉会～